

組合の楽しい便り 投稿歓迎します。

No430

ラベルニュース

東京都ラベル印刷協同組合

☎111-0051 東京都台東区蔵前 4-16-4

令和3年6月号

編集:広報・情報システム委員会

TEL(3866)4561 FAX(5821)6443



第五十五回通常総会を開催

北島理事長が留任二期目に

新理事に大澤、藤井、保坂、川野の四氏

第五十五回通常総会は、五月二十一日(金)午後六時より、台東区柳橋の「東商センター」に於いて開催され、各議案がすべて満場一致で可決承認されました。今回は新型コロナウイルスの非常事態宣言の中、

今回は新型コロナウイルスの非常事態宣言の中、第一号議案・令和二年度事業報告及び決算関係書類承認の件は、本間敏道専務理事が原案を朗読し、続いて植田治司氏が監査報告を

行い、満場一致で可決承認されました。第四号議案・理事・監事選挙の件では、北島議長より例年通り指名推薦制を取りたい旨が説明され、あらかじめ推薦された理事六名、監事二名の名前が読み上げられ、北島議長から新理事・監事について承認を求めた結果、満場一致で承認され、ました。

第三号議案・令和三年度における借入れ金額の最高限度額決定の件についても、従来どおり二千万円としたいと説明があり、第四号議案・役員報酬決定の件でも従来どおり支給しない旨を説明し、いずれも満場一致

より、理事長に北島憲高氏、副理事長に平山良一氏、専務理事に本間敏道氏の三役の留任を承認してほしいと提案があり、これも満場一致で承認され、総会は無事終了しました。

理事長に再任された北島憲高氏は、二年前に理事長に就任しましたが、この一年間は新型コロナウイルスによって組合事業もほとんどできず、歯がゆい思いをしましたが、今後はコロナ過でも何とかオンライン

でできるもの、研修会や講



保坂知彦氏



大澤雅純氏



藤井雅一氏



川野豊久氏

演会などでもできればと思っ
ています。ミニ機材展も三
回も中止、延期となってお
りませんが、今年度は何とか
開催したいと思っております
ので、今後ともよろしく
ご協力をお願いいたしま
す」と挨拶しました。

新役員は次の通り。

■理事長・北島憲高(北島
シール印刷所) ■副理事
長・平山良一(日本ラベル)
■専務理事・本間敏道(事務
局・員外) ■理事・大澤雅純
(昭和レーベル印刷工業)、
藤井崇徳(大進ラベル)、保
坂知彦(旭ネームプレート
製作所)、川野豊久(弥生印
刷紙工)、藤井雅一(フジラ
ベル印刷)
■監事・植田治司(丸吾)、
坂内仁英(光英堂シール印
刷)

令和三年度事業計画

実施事業

1. 技術・環境対策委員会
新技術、新商品の積極的
な開発と環境問題、リサイ
クル化に取り組む

①ラベル関連ミニ機材展
の開催

② R P F 化によるリサイ
クル化事業のさらなる普
及・啓蒙

③ 環境問題への取り組み
として V O C 削減に努力す
る。

④ デジタルプリンターの
将来性と課題について検討
する

2. 教育・経営委員会

経営者と従業員の意識改
革と、資質の向上を目的に
した各種事業を実施する。

① 人材の育成を目指し
た、経営者、従業員への教
育支援「出前・出張講座」
の実施

② 環境対応へのシール、
印刷グリーンプリンティグ
(G P) 認定取得支援

③ 小規模・零細企業向け
の簡易版事業継続計画 (B
C P) の推進

3. 広報・情報システム化 委員会

組合員に対し迅速な情
報の提供と、組合事業の広
報活動を積極的に行い、多
様な情報化時代への対応を
はかる。

① 組合機関紙『ラベルニ
ユース』のよりいっそうの
紙面充実をはかる。

② 組合ホームページの
内容について、大幅な見直
しとその活用方法の研究

③ 国や東京都などの金
融情報、助成金情報の迅速
な提供をはかる。

④ 「 2 0 2 1 年、 2 0 2
2 年版組合員名簿」の発刊

4. 福利厚生委員会

組合員および従業員の福
利厚生に関する各種事業を
行い、ゆとりと余裕のある
労働環境構築に努める。

① 従業員対象の働き方
改革の徹底、有給休暇取得
率のアップを図る。

② 組合研修旅行とボーリ
ング大会の実施など組合員、
従業員を対象にした福利厚
生事業の充実

③ 育児休業や介護休業法
など関連法規の周知徹底。

5. 事業委員会

組合財政の基盤強化のた
めに、副資材の共同購入と
新たな事業収入の道を探る。

① 雄型用紙等、副資材等
組合取扱商品の使用方法を
ホームページで紹介
② 組合オリジナル取扱
商品の調査・研究に努める。
③ 組合取扱商品の拡大
と P R に努める

青年部が総会

事業計画などを承認

青年部の第三十七回通
常総会は、四月二十三日
(金)に組合事務所にて、オ
ンライン(Z O O M)で開催
され、令和三年度事業計画、
予算案がすべて承認されま
した。

事業計画は次の通り。

① 青年部の活動促進、部
員相互の交流

② 正札・神奈川青年部と
の研修及び交流

③ 定期的な勉強会・研修
会の開催

④ 印青連・中央会を通じ
て同業種、異業種との
交流

⑤ W E B 通じた情報交
換や交流・発信活動
(S N S 等)

⑥ 親組合との相互連携
新役員は次の通り。

部長・北嶋國芳、副部长・
山崎俊、藤井崇徳、部員・
森文吾、顧問・川端信夫、
岡崎敦彦、藤井雅一、弓納
持大輔

高橋恭二さんを偲んで

本間 敏道

「本間さん、今度韓国に麵のルーツを訪ねに行こうよ」と高橋さんに誘われたのは今から三十年近く前だと思います。麵のルーツは中国じゃないかと思いがながらも、三泊四日の韓国旅行に出発しました。

当然韓国には麵と言ったからインスタントラーメンしかなく、滞在中に麵を食べたのは一回だけでした。こうしたとぼけた一面のある



人でしたが、一回り違いの丑年でしたが、私を色々なところへ連れて行っていただきました。

当時の不二紙工で営業マンとしてシール印刷業界を担当し、いち早くカッターの開発に目を付け、退社して三和技研を設立し、全国のシール業者にその名を轟かせました。

当時はマリーというグレートピレニーズ犬を可愛がっており、このマリーちゃんを乗せるために、わざわざ車をホンダ・オデッセイに変えたほどで、犬小屋もクーラー付きのそれは立派なものでした。

第一線を退いてからも、時々「今銀座のギャラリー

に来ていますが、食事でもしよう」と誘ってくださり、私も喜んでご一緒しました。食事の後に飲みに行くのですが、高橋さんは一件の店で三十分くらいしかおらず、すぐに次の店へ移動するの

です。腰が落ち着かないというか、せっかちな人でもありました。

出身が大宮高校というところで、同窓会の幹事もしており、時々会報に随筆を書かなければいけないので、本間さん代りに何か書いてくれよと、ゴーストライターを頼まれたことも何回かありました。

体調を崩されたと聞き、心配していましたが、ご息の範幸さんから本間さんと思田さんなら分かると思うから一度会いに来て下さいと言われ、二年前の七月に恩田さんと二人で大宮のうなぎ屋で一緒に食事をしました(写真)。

私と思田さんのことは分かり、当日持参した古い写真なども見ながら、これは○○さんだ、これは××さんだと、懐かしそうに目を細めていました。

これがお会いした最後になってしまいました。その後、私も後にも「親父さんはどうしてる」に聞いていましたが、本当に残念です。どうかゆっくりとお休みください。

ラベルコンテスト
出展応募を開始

第三十一回シール・ラベルコンテストの応募が開始されました。

五月十七日よりホームページに公開され、五月二十四日から募集開始、七月二日が締め切りとなります。詳細は連合会のホームページで。

全日本シール印刷協同組合連合会 (seal.gr.jp)

組合員名簿を

7月上旬に発刊

組合では「二〇二一年、二〇二二年版組合員名簿」を現在作成中です。組合員、会友、協賛会の中で、社名、代表者、住所、電話番号、FAX等の変更があった場合は訂正をお願いいたします。組合から現在登録されているデータをFAXにて送りますのでよろしくお願いたします。

また、組合員・会友については顔写真の更新もお願いいたします。

振り返れば五十年 私のラベル業界半世紀

専務理事 本間 敏道 (10)

年史の編纂を終えて次に何をやるかと考えていた時に、また栗原さんから「連合会の事務局をやってくれないか」という話がありました。栗原さんは連合会の事務局の強化をかねてから主張していましたので、私を事務局長にしてそのビジョンを実現したかったようです。

しかし、当時は事務局長がいましたので、とりあえずラベル組合の事務局をやつてほしいということでした。ラベル組合の事務局にも当時は白井さんという事務局長と小澤さんという経理・事務の女性がいましたが、私が白井さんの代りの事務局長として平成元年八月に就任し、組合の事務局という新たなスタートを切ることになりました。

年史の編纂は取材をして記事にするという新聞の編集と全く同じでしたから、比較的苦勞もしませんでした。ところが、組合事務局の仕事というのは、会社でいえば総務のようなもので、いわゆる何でも屋です。私に果たして務まるのかと不安でいっぱいでした。当時の理事長は日野旭堂社長の日野七郎氏でした。私は今日まで日野七郎氏、栗原延行氏、池田俊平氏、渡邊正一氏、弓納持昇氏、平山良一氏、そして現在の北島憲高氏と七人の理事長の下で仕事をしてきましたが、日野理事長ほど理事長職に向いた人はいなかったように思います。

ある時日野さんが当時専務理事だった北信社社長の丸山義春さんに「丸さんは朝起きたら一番に何を考える」と聞きました。丸山さんは「そうだな、僕はゴルフのことかな」と、ゴルフ好きの丸山さんらしい答えでした。すると日野理事長は「僕はまず一番に組合のことを考える」と言いました。これは本当のことで、当時は一〇〇社近い組合員があり、四支部制でしたが、支部会の時には事前に支部長に電話をし、集まりが悪いと支部長にはつばをかけたいました。

日野さんに関してはいくつかの思い出があります。一つの思い出があり、叙勲の話があり、私が叙勲の申請書類を作ることになりましたが、この書類作成が半端なく大変な作業でした。しかし、この申請書類作成の際に、日野理事長がガンで亡くなってしまったのです。叙勲は七十歳からですが、死亡叙勲はその前でも可能なため、告別式の祭壇に飾つてあげたいと書類の申請が急がれました。締め切りが迫り、私も連日夜遅くまで作業をしましたが、突然東京都の担当者から連絡があり、「我々も何とか間に合わせようと努力しているのに、なんで国会議員に頼んだのですか」とお叱りの電話でした。よく聞くと当時民社党の国会議員で元全印工連専務理事だった井上計と言う人がおり、その人が頼みもしないのに「おれが一発電話すれば大丈夫だ」と、東京都に圧力をかけたのです。都の担当者は「間に合わせますから、明日の朝一番で書類を提出してください」というのです。本来ならもう少し余裕があったのですが、圧力をかけられたのが気に障ったのか、嫌がらせをされました。その日は徹夜をして何とか書類を書き上げ、朝一番に都庁に提出し、何とか間に合い、告別式の祭壇に飾ることができました。

この井上計氏はその後比例区に回り、印刷業界も全面的に支持しましたが、名簿順位が気に食わないと立候補を取り止めましたが、この時は野党に風が吹き、立候補していれば悠々当選していたのに、最後の最後までなんともした迷惑な人でした。

(続く)

■腹部大動脈瘤とは

腹部大動脈瘤とは、腹部大動脈の一部が脆弱化し、その部位が限局的に拡張する病気で、腹部大動脈の直径は約2cmですが、3cm以上に拡張した部位がある場合に腹部大動脈瘤と診断されます。

No174 健康がいちばん!

「腹部大動脈瘤」とは 原因の90%が動脈硬化で

位を“上行大動脈”、カーブを描く部位を“弓部大動脈”、下方へ走行する部位を“下行大動脈”と呼びます。

うになると次の症状が現れるようになります。

血管炎

大動脈炎症候群やベーチェット病などの血管に炎症を生じる病気が原因となることがあります。

外傷

外傷によって生じる動脈瘤は、血管が破綻して生じた血腫が周辺の結合組織などに被包(包まれること)されて動脈瘤化する“仮性動脈瘤”であるケースが多いです。

■原因とは

腹部大動脈瘤の原因は、血管壁の一部がぜい弱化することです。血管壁の脆弱化を引き起こす因子としては以下のものが挙げられます。

動脈硬化

大動脈は、心臓から全身に向かって送り出された血液が通る非常に太い動脈です。心臓から出て、まずは上方に走行して頭頸部や上肢に枝分かれし、カーブを描くように彎曲して下方へ向きを変えて走行します。心臓から上方へ走行する部

感染症

梅毒やサルモネラ菌などが動脈壁に感染することによって、好中球をはじめとする免疫細胞が血管壁を

先天性疾患
マルファン症候群などの結合組織が脆弱化する先天性疾患では、血管壁が形を保てずに動脈瘤を形成することがあります。

■症状とは

腹部大動脈瘤の多くは、腎動脈の分岐部以下に形成されます。痩せ型の人では腹部に拍動性の腫瘍として触れることもありですが、発症初期の頃は目立った自覚症状がほとんどありません。しかし、徐々に動脈瘤

■治療とは

腹部大動脈瘤は自覚症状がなく、瘤の大きさが5cm未満のものでは血圧のコントロールや生活習慣改善などを行って、定期的に検査を受けながら経過観察していきます。しかし、以下の場合には、破裂の危険があるため根本的な治療として手術が行われます。

瘤の大きさが5cm以上になる場合
何らかの症状が現れている場合
血圧コントロールが行えない場合など

手術は、動脈瘤を形成した血管を切除して人工血管に置換する“人工血管置換術”とカテーテルを用いて動脈瘤内にステントグラフトを挿入し瘤の血栓化を図る“ステントグラフト内挿術”があります。

【引用資料】

<https://medicalnote.jp/>

(株)ミヤコシ(千葉県習志野市、宮腰亨社長)は、シール・ラベル市場向け間欠オフセット印刷機「MLPシリーズ」の新製品として、「MLP13M」(ミドルレンジモデル)と「MLP10i」(ウルトラコンパクトモデル)の二モデルを開発し、一月より販売を開始している。

間欠オフセット印刷機を発売

シール・ラベル市場向けに 2 モデル



New MLP シリーズ

ことから、従来機の高い印刷品質は維持し、なおかつ少ないスペースに設置可能なウルトラコンパクト機を開発した。またウルトラコンパクト機「MLP10i」とハイエンド機「MLP13M」の間に属するニーズにも応えるべく、ミドルレンジ機として従来機の高い性能を受け継ぎつつ、全長と価格を抑えた「MLP13M」も開発した。

開発背景としては、エンドユーザーから要求される品質レベルが年々高まる中で高い見当精度、正確な色合わせが可能でなおかつ高生産性持つ印刷機が求められていた。

その中で同社従来機「MLP13C」はシール・ラベル市場を中心に高い評価を得てきた。一方で設置スペースの問題もあり「MLP13C」の導入を断念せざるを得ない顧客もあることから、従来「MLP13C」の高い印刷品質は維持し、省スペース

に設置可能なウルトラコンパクト機「MLP10i」を開発した。

各モデルとも給紙+オフセット印刷+色+フレキソ+ダイロール+カス上げ+巻き取りが標準構成。

「MLP13M」の主なスペックは最大印刷幅 330mm、機械長 7750mm、254mm、天地送り 50～254mm、

「MLP10i」の主なスペックは機械長 6000mm以内、最大印刷幅 254mm以内、印刷速度は毎分 120 ショット、天地送り 50、200mm

「顧客の喜び・満足想像するモノづくり集団」を経営理念に掲げている同社は高度化するシール・ラベル業界の要求に応えるべく、これまでも新製品の開発を行ってきたが、今回さらに顧客のニーズに応えた新製品の開発・販売に至ったもの。